

第2回総合計画審議会総会会議要旨

日 時：平成27年10月30日(金) 15:30～16:30

会 場：伏木コミュニティセンター 3階多目的ホール

参加者：委員、参与2名、幹事12名

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
 - (1)審議状況・スケジュール
 - (2)アンケート調査の結果について
 - (3)基本構想の骨子案について
 - (4)意見交換
 - (5)その他
- 4 報告事項
 - (1)「未来高岡」総合戦略の策定について
- 5 閉会

【総括部会の審議状況】

《副会長》

・10月26日に開催した第3回総括部会の内容についてご報告申し上げます。総括部会では、まず、4部会それぞれの第1回専門部会の開催状況の報告を行い、その報告をもとに調整のための意見交換を行った。

・能作文化・地域産業部会長より、文化活動を気軽に行う場所が必要である。文化に対する市民の理解を高める必要がある。企業誘致と併せてものづくり施設の一元化による観光の推進、高岡のよさや魅力を地元の人に伝えること、知ってもらうことが必要であるとの意見があった。

・古池観光部会長より、北陸新幹線の開業効果の検証が必要である。高岡駅と新高岡駅間の繋がりの強化、中心市街地への回遊性の向上が必要である。関西、名古屋方面に対するハンディの取り戻しが必要である。クリエイティブ人材の呼び込みが必要である、という意見があった。

・宮田ひとづくり部会長より、ひとづくりこそがまちづくりの基本であり、ひとづくりの分野では、当事者の視点が重要である。子育て支援センターのサービス、機能の充実。学童保育における空き教室の活用、指導員の確保、病児・病後児保育サービスの充実などが必要である。市民協働により地域の中で青少年の健全育成を図ることが必要。学校教育の国際化、アクティブシニアの活用などが必要であるとの意見があった。

・最後に炭谷安全・安心部会長から、全般的に市の施策が市民の理解、認識を得られておらず、そのことが市民の不安に繋がっているのではないかと。市民と行政の繋がり、職員と地元の信頼関係をつくるための取組みが必要である。地域において福祉ボランティアを育成するための取組みが必要であり、このような点で他の部会との連携も重要という意見があった。

・部会の報告を受け、委員で全体の共通の課題として行政からもっと積極的に情報発信を行い、市民も積極的に情報にアクセスをして、市民自身が高岡のことに関心を寄せることが肝要であるという意見であった。

・【資料No.3】基本構想骨子案により、課題や理念の考え方として、もう少し高岡市の特性を踏まえた内容を検討していきたい、まちの将来像については、きれいにまとまっていると思うが、メッセージ性という意味でももう少し市民に伝わりやすい表現がないか検討してはどうか、全体として、市民が誇りや自信、あるいは共感を持てるようなメッセージが必要であるという意見が出た。

・基本構想については、今日の総会や今後の専門部会の審議状況を見ながら、引き続き総括部会において審議し、内容を固めていく。

【意見交換】

《委員》

・26日の総括部会では、骨子案についてもっとインパクトがあったほうが良いという意見があった。（骨子案のまちづくりの進め方の3つのアイテムの中にある）文化の再構築は総括部会の意見を踏まえて変わったところであるが、他の部分も優等生すぎて、高岡らしさがない。

・まちの将来像は理想の姿ではあるが、過程をもっと明確にした方が良いのではないかと。

《委員》

・高岡市は日本海側を代表する商工業中心都市。長い歴史の中で商工業を中心とした文化創造としての潜在的ポテンシャルが高いものがある。

・これからもなんとかなるだろうという気持ちを抱きたくなるのはわかるが、現在の社会情勢からすると過去にあったからといって現在、将来もあり続けるとは限らない。文化創造機能を時代とともに再構築をしていかなくては描きにくい。

《委員》

・市民と職員とがいかに信頼関係があるかが重要であり、市民がなにかをするときに市がバックアップしてくれる組織であるという積み重ねが必要。

・市が色々と活動を行っているが、(市の活動について)市民が分からなかったり、知らないためにうまく活用されていない。使いやすくして、十分に活用していけばもっと住

みやすくなる。

- ・アンケート結果にも出ているが、市外から来た人は高岡を住みやすいと言ってくれている。しかし、地元のひとにはそれが分からないということが見えてきた。

《会長》

- ・まちづくりの進め方の3つのアイテムの中のコンパクトアンドネットワークの意味について事務局より説明していただきたい。

《事務局》

- ・まちづくりの進め方にアイテムの一つとしてあるコンパクトアンドネットワークの狙いは、高岡は高岡駅、新高岡駅を周辺とする中心市街地の活性化に加え、伏木や福岡などそれぞれの拠点があり、その拠点ごとに豊かな文化がある。その拠点について、しっかりとした基盤を作っていくという意味でのコンパクトとそれらの拠点を結ぶことによるネットワークを掲げている。

《委員》

- ・先日、自治会より配布された「未来高岡」総合戦略の概要版を見た。本日配布されたアンケート結果と照らし合わせた時に、【資料No.3】の基本構想骨子案の項目は20～30代の人に総合計画をどうアピールするか具体的なものがみえてこない。20～30代が希望をもって結婚し、子育てをできるような具体性と若者に向けてアピールするような文言にできないか。

- ・世代をターゲットにしたような書き方はできないのか。年齢別、対象別など一覧で見た時にわかりやすいものが良いのでは。

《委員》

- ・骨子案の全体構成について、文言の一つ一つにインパクトがなく、印象が残らない。
- ・わかりやすさが必要ではないか。今後パブリックコメントなどを行った時に、市民の方に伝わりやすいものにしていくべき。
- ・前回の基本構想と比較しての変更点や強調した部分、工夫した部分はどこか。また、それぞれのめざすまちの姿には「子育て満足度日本一」「市民一人に1スポーツ」「住んでいるだけで健康になれるまち」などそれぞれの各計画の中ですでに明記してある方針の文言を(基本構想の)表現の仕方の中に盛り込むことも検討してほしい。

《委員》

- ・郷土愛について最近言われなくなった気がする。地域を愛するというような高岡大好き人間を育てるところが見えてこない。高岡を好きな人を育てるというような具

体的なものがあっても良いのではないか。

・高岡市が他の地域よりリードしようという意志が構想の中にあった方がよい。現在の骨子案は内容の表現が優しい。

《委員》

- ・【資料No.4】検討資料の4章、5章を付けて欲しい。
- ・特に人口の見通しは予想できるが、土地の利用の考え方については例えば市街化調整区域の住宅の提供など高岡としての対策を考えて欲しい。

《事務局》

- ・若い世代のアピールについては考えていかななくてはならないところである。めざすまちの姿は抽象的な表現にとどまっており、これから専門部会の中で基本計画として具体的に何をするかを書き込んでいくと、見えてくる部分があると思う。
- ・まちの将来像は一言に集約しているものである。少子高齢化は極めて切実な問題であり、人口減少問題については若者や女性にアピールしていく必要を考えていかななくてはならない。
- ・最終的な見せ方は全体構成の中で考えていく。
- ・（骨子案の）表現が動的でないという意見は総括部会でも頂いている。将来像は10年後の到達点なのか、そこに向けて動いていく様なのかは表現ぶりなどで総括部会の中で詰めていきたい。
- ・郷土愛を育てるというご意見は専門部会の中でも多く頂いた。炭谷部会長の言っていた住民の方にとって住みやすさが伝わらないというのと根は同じではないか。
- ・改めて高岡の良さに気づいてもらえるために、具体的にどう取り組んでいくかは専門部会の中でもご意見を伺いたい。
- ・【資料No.4】検討資料の4章、5章の空欄の部分については、人口の見通しは、総合戦略をベースに考えていく。土地利用については内部的な検討も必要にある。今後、進捗の中で示していきたい。

《会長》

- ・人口について総括部会の26日の資料では、高岡は1988年から人口減少が始まっている。2060年度の人口の見通しで考えているが、1988年～2060年まで人口は減り続けるのかと思えてしまう。現実の危機感を持たなくてはならない。
- ・新たな形で計画を策定して、変えていくためには大きな力が必要である。そのため、一つには地域間競争に勝ち、競争優位性を確立しなくてはならない。
- ・もう一つは高岡が県西部の中核都市としての求心性を確立すること。この二つは矛盾したものかもしれないが、その矛盾を解決していかないと将来の高岡の発展が難しいの

ではないか。その意味では、この 10 年間は高岡にとって重要な時期であるため、この現状認識の中で地に足をつけた考え方をもちながらも、変革していくために市民のモチベーションがあがり、インパクトを持って打ち出せるような基本構想であってほしい。

- ・高岡の 10 年後を考えた時に夢を持てるような基本構想を実現してほしい。

《副会長》

・【資料№3】骨子案の中の高岡市の取り巻く社会環境と地域課題が 3 つしかない。この地域課題の項目を増やすことによって、高岡の現状と課題を明らかにし、どう改善するかということが見えれば、もう少しインパクトが出てくるのでは。

・将来像について、将来像を理想とするならば、行動計画をサブタイトルにつけたら市民にメッセージ性が伝わるのではないかな。

《委員》

・アンケート調査の結果、若者が高岡に住みたいと言っているが、若者が求める仕事があればという項目が 70% 近くある。U ターン、I ターン対策が必要。

・知人から金沢の企業家は自分の工房をオープンにするが、高岡は工房の中には入らせず、閉鎖的であるとの話を聞いた。

・京都の料亭はみんなが厨房に入ることができ、さらにレシピをオープンにすることによって若者を育てていると聞いている。それぞれの企業の特色はあると思うが、人と人をつなぐという点から高岡の企業間のオープン感が必要。

・小学校でも錫や螺鈿などのものづくり体験の機会があり、未来を感じる。若者が I ターン、U ターンなど来るための仕事について考えていきたい。

・アンケートをとる時に県外在住の高岡にゆかりのある人にもアンケートを取ったら良かったのではないかな。インターネットなどの方法もあったはず。

《委員》

・総合計画はその後の 10 年の構想になるので総花的になるのは仕方ないが、全体的にもう少し盛り込む必要がある。文言は他市に当てはめても違和感のないようなものになっている。高岡をとりまく社会環境や地域課題をもっと具体的なものが出れば高岡なりの描き方が出てくるのではないかな。

・まちの将来像の文言についても高岡がめざすもの、他市との違いをいくつか出していくべきである。

- ・もう少し高岡ならではの雰囲気を出してほしい。

《委員》

- ・高岡には良い文化がある。県外に行った人に聞いても高岡は良いという。

- ・諦めをもった市民がたくさん出てきているのではないか。諦めるとすべてが終わってしまうので、そうじゃないということを打ち出すインパクトのある骨子案にしてほしい。
- ・高岡が変わるという強い言葉をもってアピールしてほしい。

《市長》

- ・高岡のどこを一つブレイクしたら大きく発展するのかというのは、この段階で示してないのは申し訳ない。
- ・地域課題については精査したい。各地域にある地域課題と高岡ならではの地域課題とを整理していきたい。
- ・まちづくりの姿は10年後の状態を書いており、静態的である。ダイナミックな志向性を持つことも必要。
- ・(基本構想の中で)高岡らしさを改めて提示していきたい。
- ・高岡大好き人間を一生懸命育てていかななくてはならない。育てていくような取組に新たな観点を持ち込みたい。小学校でものづくりに関わった子が社会人になり、高岡を支える人材になってくれると思っている。
- ・高岡は常に挑戦するという姿勢を示していきたい。
- ・工場が閉鎖的というのは感じているが、最近は見せる産業という生産プロセスを見せることによって信頼性を高め、付加価値を付けることが定着している。産業過程を見せることで、出来栄えが同じでも商品価値が高まる。お互いに情報を共有する産業づくり、地域づくりを進めていきたい。
- ・若者たちへ起業してほしい。日本は世界に比べて創業率が低く、特に富山は低い。若い人たちが自ら起業、創業をするために、行政として支えていきたい。